2019/4/8

週刊　リアライズ　vol.47

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ　①

新しい一歩を踏み出す季節となった。

新しいクラスの顔ぶれ。クラブでは後輩達との関係も生まれる。

ミニ・リセットして、いきいきと目の前にある人と人の場にこぎ出そう。

このスタートの時期に、新しい場に生き始めるみんなに、Ｓｈｉｆｔ　ｕｐと言う言葉を贈りたい。Ｓｈｉｆｔ　ｕｐとは、一般にはエンジンのギアをよりスピードのでるものに変換する動作を表す言葉として使われる。ここでは今までより、一歩、あるいは半歩ギアを上げて生きるという意味で用いたい。

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ①　より謙虚になろう

学ぶとは、自分にないものを手に入れることだ。謙虚な姿勢は、「学び」の十分条件ではないが、必要条件ではあるだろう。それは、なぜか？

自分に問いかけ、自分で答を出してみてほしい。

2019/4/9

週刊　リアライズ　vol.48

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ　②

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ②　より自分に厳しく

人は皆、何らかの役割を生きている。また、人生の各ステージで、担うべきその役割は変わっていく。

小中学生の頃には、自分の家庭や学校という場での役割を超えるものはあまりないだろう。
高校生になると、自分の将来における「働くこと」を視野にいれて自分というものを意識し始めることになる。
いつの日か、みんなは、市民となり、家庭人となり、余暇を楽しむ人となるだろう。そうした将来展望の中で、今の自分は何を身に付けていくか。将来かかわっていくだろう様々な関係や役割をふまえて、自己形成を成し遂げていくのが、高校生の時期だろう。

自分らしい価値を自ら判断し、取捨選択し、創造を積みかねていく。ひとりひとり違う、そのあり方が、あなたに固有の「自分らしさ」を作り上げていく。

将来あなたが担う役割とつながっている今のあなた。２年生になったあなたには、自らの進路実現のためのすべての場面で、より自分に厳しく課題とその解決に取り組んでほしい。

2019/4/10

週刊　リアライズ　vol.49

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ　③

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ③　より目標の具体性を上げよう

自分の将来の「働くこと」とつながる進路を見さだめていくのが、この２年生の課題だ。

おぼろげだった進学目標は、より具体性を求められることになる。

そして大学の受験という現実を、より具体的な形で考えることに迫られていくことだろう。

大学受験は高校受験とは異なり、合格倍率も５～１０倍はよくあることだ。

自分の学力と現実の大学の難易度というものを、合わせ考え、自分の志望を、そしてその実現可能性を検討していくことになる。

選考の基準となるのは、各自の価値観、職業観、ひいては生き甲斐ややりがいといったものだ。

自分のライフステージを、どう考えるかということも関わってくる。

「理想と現実の葛藤」もあり得る。そして、その中で、自分というものをよりよいものに引き上げる力が養われるだろう。

2019/4/11

週刊　リアライズ　vol.50

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ　④

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ④　より切り替えのできるようになろう

大学受験に向けての取り組みは、たえまない自己鍛錬の積み重ねとなる。当然、様々な面で、タフであることが求められる。

肉体トレーニングが、限界ぎりぎりまで自分を追い込むことが向上に結びつくのと同様に、勉学も厳しく自分を鍛えるように学ぶことによってこそ向上につながる。

ストレスフルな生活とどうつきあっていくか、すなわちストレスマネジメントができるようになることも、日々の生活の中で必要なことだ。

勉学だけが高校生活ではない。勉学以外の場で、自分らしさを追求し、気分を発散することも大切だ。要は「切り替え」が、ふさわしくできるかどうかだろう。

2019/4/12

週刊　リアライズ　vol.51

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ　⑤

Ｓｈｉｆｔ　ｕｐ⑤　より強く目標を意識しよう
～２年の終わりが目標～

ほとんどの教科と分野で、その基礎的な学習は２学年で終わる。２年の終わりで、７３期が、一人一人で、また全体としてどこまで行けるかが問われている。

もちろん３年になって新しく学ぶものがない訳ではない。３年では３年での学習が進む。しかし、センター試験問題の７割以上が基礎的な学力を問う良問であるという時の「基礎的」学習は２年で終わるといってよい。

学習面だけではなく、人として、富高生として、２年の終わりで、どうなっているか、どこまで自分たちを高められているか。

そのことを常に意識してほしい。

2019/4/25

週刊　リアライズ　vol.52

いっちょやったろか精神

私たち７３期がスタートしたとき、学年主任の北谷先生は、目指すべき学年全体のあり方として「いっちょやったろか」ということを大切にしてほしいと述べられました。

たとえばクラス全体として、何かをしなくてはならない、というときに、誰も自分から進んで手を挙げようとしない。積極的に「はい」という言葉がない場合に、自分もそんなに積極的にしたいという訳ではない。しかし、それでは全体が前に進まない。「しゃーない、やったろか」と、手を挙げてくれる人が現れてくることを期待する。

話は、そのようだったと思います。

今、クラスで、たとえば文化祭に、たとえばペナントに、クラスとして取り組もうとするとき、この言葉はとても有効な言葉として機能していることを、みんなは感じているのではないでしょうか。

仕事を引き受けることは、それなりに責任も発生し、面倒なことです。でも、誰も手を挙げないのであれば、自分がやろうと申し出る人が出てきて、そんな人が出てくれれば、もちろん周りのみんなもできる限り支援する。これは大切なことだと思います。
みんなが、自分のできる範囲で、できるだけのことをする、そのことが全員で成し遂げられていくとき、行事やクラスの和は成功に近づいていると思うのです。

2019/5/10

週刊　リアライズ　vol.53

笑　顔　の　力

この学年の生徒のみなさんには、普段から笑顔の人が多いと思います。

笑っている顔は、まず人に好印象を与える。
笑っている顔は、コミュニケーションを広げる。
笑っている顔は、物事を明るく、前向きな方向に進める力があります。

笑う門には福来る。

最近の科学研究によると、笑顔によって免疫力を高め、病気のリスクを遠ざける効果も確かめられているとか。

学習面では、各教科で２年になって、さらにその内容は奥深くなり、忍耐強い取り組みを求めるものが多くなっています。
学ぶ立場のみなさんにプレッシャーが、ないと言えばウソになるでしょう。
目の前には定期考査、そして今の学力を見るための模試(5/25)。
全力で、学習に取り組む中でしか、乗り越えるものは見えず、方策もたたず、手に入るものも少ないことでしょう。
集中と、適度な緊張感をもって、しっかり取り組もう。

キープ　スマイリング　で。

2019/5/23

週刊　リアライズ　vol.54

１年後を見る

４月のスタサポの結果が返ってきた。
各自、その成績を振り返り、今、そして今後に活かそう。

・基礎、土台の大切さ。

裏面下の表から分かること。２年のうちから受験を意識した学習に取り組み、基礎を蓄積し固めることと、大学合格率には深い関連性がある。
３年になってから始めるでは、既にできている者としてこなかった者との間に大きな隔たりがあり、その差を縮めることは難しい。

・反復の大切さ。

基礎事項の習得に、反復学習は欠かせない。念を押すほどの繰り返しが有効。

・学習習慣と成績との関係。

安定した家庭学習なしに、学力は定着しない。

・日々のプラスαの差が、１年後の自分とどう結びつくか。

塵も積もれば山となる。可能性はそこにだけある。

・自分は何を目指すのか。

大きな目標を抱くとともに、それにむけての小さな目標を自分で設定しよう。

・どうＡＣＴＩＯＮすべきか。

日々の行動の見直しと、改善が次のステップにつながる。
P(Plan)D(Do)C(Check)A(Action)サイクルの実践。

2019/5/31

週刊　リアライズ　vol.55

もっとも効果的

学習には、未修得のものを学習して身につける側面と、すでに学習しているが十分ではない部分を補う側面がある。

前者は、具体的には、普段の授業で新しい分野の説明を聴き学んでいく過程であり、後者は、テスト前の学習にあたるだろう。

また、前者は反復がその主な内容であるのに対し、後者は自己の学力検証、自己分析が必要なため、より自主的な力を要するということがいえる。

「模試のやり直し」は、後者の最大にして、もっとも各自が自分にあった形で、もっとも効果的に今の学力を伸ばすことのできる方法だ。

「模試のやり直し」は、それを正解の確認だけで終わらせるのではなく、自分にとって、どこが分からず、どこを補うべきなのか、作業を通して検証しつつ学ぶことが大切だ。

このような機会に大切なのは、不足だった箇所の洗い出しと、同じ間違いをしないための方策につながる『ポイント』を自ら見つけ出すことだ。

もちろん、「もっとも効果的な学習」は、かなりの力技でもある。健闘してほしい。

2019/6/18

週刊　リアライズ　vol.56

Do your best

A guidance course was held at Subaru Hall last Thursday.
You were able to get detailed information about various universities and vocational schools that you are interested in.
Now, it seems that everyone's future vision has been made clearer.
A clear goal helps to increase your motivation.
The basis of all learning is our school classes, so do your best to study for the coming test.

2019/7/4

週刊　リアライズ　vol.57

e-Portfolio オープンキャンパス

ペナント、文化祭が終わった。各自、時間のある時にその時のことを思い出し e-Portfolio に入力→承認申請しておくこと。

e-Portfolio については、導入初年ということもあり、その運用については不明な点が多い。
関西学院大学が利用することを発表しているが、多くの国公立大学は利用しない予定のようだ。逆に実質的に利用される場合、感想文程度の内容では評価されないとの情報もある。
利用するしない、またその重さは、各大学に任されているので、今後の動向を見守る必要がある。
どちらにせよ、「振り返り」は、時期が過ぎると書くことが容易でない。
印象深い今の時期に、入力を済ませておこう。（裏面参照）

オープンキャンパスは、昨年度に続き、今年も１校以上参加すること。
本校では、特別な場合を除き、３年時では、オープンキャンパス参加を生徒に求めない。３年の夏は、学力向上に充てるべきだからだ。
では、特別な場合とは何か。
・指定校推薦、ＡＯ入試、公募推薦での入試、面接試験のある大学を受験する場合、その大学に実際に足を運んでいることは必須なので、３年７月段階で、そうした大学への入試を考え、かつ実際に行ったことがない場合、オープンキャンパスに行くことになる。
ともあれ、第一志望の大学に行ったことがないようでは、話にならない。自分の将来を考えつつ、オープンキャンパスに参加しよう。

2019/712

週刊　リアライズ　vol.58

学びて時に之を習う。

「論語」という書物はグレートな書物である。
孔子の言行録であり、儒教の聖典であると同時に、人生の知恵、生きるヒントにつまった内容を持っている。最近では「高校生が感動した『論語』」といった本まで出版されているくらいだ。こんな本が、今から2500年前、文字文化がやっと始まり始めた頃に成立していることには、本当に驚くほかない。

その冒頭の一節が次の文章である。

学而時習之、不亦説乎。
学びて時に之を習う、亦(また)説(よろこ)ばしからずや。

「論語」は、二十の章段に分かれているが、その冒頭の二文字を章段の名前とするので、第一章は「学而(がくじ)編」と言われている。その冒頭の一文である。
これには様々な解釈がなされてきたのだが、今、富校生バージョンとして、次のように解釈したい。

「初めて学習した時には、新しいことが分かったという気持ちでワクワクするものだが、そんな新鮮な感覚はそのうちになくなってくる。でも、何かのタイミングで、もう一度その内容に触れた時、その学習内容の大切さや奥深さに目覚める、ということがあるんだよな。学んでは、適当な時期にまた、おさらいをして、そのたびに理解が深まってくるときの喜びってないよね。自分という人間が一歩成長したって感じなんだよね。」